

# モンゴル語の所有表現と「所有傾斜」

## — 共同格の接尾辞 *-tai* を中心に —

ナヤンバートル・アマルジャルガル 堀江 薫

東北大学大学院国際文化研究科

[amraa\\_n@linguist.jp](mailto:amraa_n@linguist.jp)

[khorie@mail.tains.tohoku.ac.jp](mailto:khorie@mail.tains.tohoku.ac.jp)

### 1. はじめに

所有表現というのは「所有するもの（所有者）」と「所有されるもの（所有物）」の間に成立する「所有（する）」という概念を表す言語形式であり、分離不可能所有 (inalienable possession) と分離可能所有 (alienable possession) を表すものに大別される。

本研究の目的は、モンゴル語の所有表現の意味や機能に関して「所有傾斜」（角田 1991）の概念を用いて考察し、日本語の所有表現との相違点と類似点を明らかにすることにある。

本研究の構成は以下のとおりである。2 節で本研究の所有表現の分析に関連の深い角田（1991）の「所有傾斜」の概念を紹介する。3 節では本研究で対象とするモンゴル語の所有表現を概観し、「所有傾斜」の観点から、特に接尾辞 *-tai* を中心に分析する。4 節ではモンゴル語の所有表現と日本語の所有表現の対照を行う。5 節では結論を述べる。

### 2. 先行研究

角田（1991）は日本語の所有者敬語のデータを基に (1) のような所有傾斜を提案している。

#### (1) 所有傾斜

身体部分 > 属性 > 衣類 > (親族) >

愛玩動物 > 作品 > その他の所有物 (p.119)

所有傾斜は分離不可能所有と分離可能所有

という区別を連続体として捉え、より精緻化したものである。「身体部分」「属性」は明確に分離不可能所有物であるが、それ以外の所有物は「衣類」のように身体部分により近いものから「その他の所有物」のように明確に分離可能なものまで様々な段階がある。角田は、日本語の所有表現である格助詞「の」、所有動詞「している」と「した」、「ある」と「いる」、「持つ」と「所有する」に関して所有傾斜の各段階における容認性を分析している。

### 3. モンゴル語の所有表現の分析

#### 3.1 モンゴル語の所有表現の概観

モンゴル語の所有表現には、(a) - (d) のような名詞（修飾）的の所有表現と (e) - (h) のような述語的の所有表現が含まれる。

- (a) 属格の接尾辞 *-iin, -nii, -n*
- (b) 共同格の接尾辞 *-tai* による名詞的表現
- (c) 再帰の接尾辞 *-aa*
- (d) 人称所属助詞の *mini, chini, ni*
- (e) 共同格の接尾辞 *-tai* による述語的表現
- (f) 存在動詞 *bai-*
- (g) 接尾辞 *-h*
- (h) 動詞 *ezemsh-*

本研究では、これらのモンゴル語の所有表現、特に接尾辞 *-tai* の意味や機能を、「所有傾斜」の概念を援用して分析・考察した。モンゴル語の

所有表現を分析する際、生まれながら持っている親族（両親、祖父など）と結婚などでできる親族（妻、子など）が異なる振る舞いを見せることが観察された。角田（1991）の所有傾斜の「親族」という分類を上記の理由で「親族Ⅰ」と「親族Ⅱ」に分けて扱うことにした。

角田は日本語の「名詞+の+名詞」表現を (i) と (ii) のように2種類の形式に分けている。

(i) 「所有者+の+所有物」

(ii) 「所有物+の+所有者」

「所有者+の+所有物」というのは、「太郎の母親」のような表現であり、後者の「所有物+の+所有者」は「赤鼻のトナカイ」のような所有物が所有者を修飾するような表現である。後者の「所有物+の+所有者」はモンゴル語で (2) のようになる。

(2) *ulaan hamar-tai handgai*

赤い 鼻-共同格 トナカイ

(2) のような「所有物+の+所有者」形式は日本語で属格の助詞「の」が使われるのに対してモンゴル語では共同格の接尾辞-*tai* が用いられる。

モンゴル語の共同格の接尾辞-*tai* は共同格の基本的な意味である「同伴」のほかに「形容詞」としての用法、または「所有」の意味があることが先行研究で述べられている (Altanzagas 1997, Heine 1997, p.54)。共同格の接尾辞-*tai* は「所有」の意味で使われる際、常に所有物に後続される。また、(3) のような名詞的な用法と

(4) のような述語的な用法がある。

(3) *tsav tsagaan tsarai-tai hüü*

真 白い 顔-共同格 男子

「真っ白の顔をした男子」

(4) *Bayaraa tsav tsagaan tsarai-tai.*

人名 真 白い 顔-共同格

「バイラーは真っ白の顔をしている。」

### 3.2 所有傾斜および共同格の接尾辞-*tai*

ここで、共同格の接尾辞-*tai* と所有傾斜の関係をみていく。まず、(5a, b) のような「身体部分」では名詞的用法と述語的用法の間にはほとんど意味的な違いが見られない。ただし、(6a, b) のように「衣類」の場合、「身に着けている衣類」と「その他の所有物」の意味になり、2つの表現の間に意味的な違いが生じる。

(5a) *ter urt üs-tei ohin*

その 長い 髪-共同格 女子

「その長い髪をした女の子」

(5b) *ter ohin urt üs-tei.*

その 女子 長い 髪-共同格

「その女の子は長い髪をしている。」

(6a) *ter ulaan tsamts-tai emegtei*

その 赤い セーター-共同格 女性

「その赤いセーターの女性」

(6b) *Ter emegtei ulaan tsamts-tai.*

その 女性 赤い セーター-共同格

「その女性は赤いセーターを持っている。」

所有傾斜の他の段階である「親族Ⅱ」「愛玩動物」「その他の所有物」の場合、名詞的表現の方が2通りの解釈が可能である。例として(7a, b) の「その他の所有物」の例文を挙げる。

(7a) *ter tom mashin-tai zaluu*

その大きい 車-共同格 青年

「その大きい車に乗っている青年」

「その大きい車を持っている青年」

(7b) *Ter zaluu tom mashin-tai.*

その 青年 大きい 車-共同格

「その青年は大きい車を持っている。」

(7a) の名詞的表現は「大きい車に乗っている青年」という「一時的所有」の他に「大きい車を持っている青年」のような「常時的所有」の解釈が可能である。一方、(7b) の述語的表現は「常時的所有」の意味でしか使われない。今までの結果は次の表1のようにまとめられる。

表1 共同格の接尾辞/-tai/と所有傾斜の関係

	身体部分	属性	衣類	親族Ⅰ	親族Ⅱ	愛玩動物	作品	その他
名詞的	意味的 違い 無し	意味的 違い 無し	身につけて いる衣類	意味的 違い 無し	「常時的」 と 「一時的」	「常時的」 と 「一時的」	意味的 違い 無し	「常時的」 と 「一時的」
述語的			その他の 所有物		「常時的」	「常時的」		「常時的」

### 3.3 所有傾斜および他の所有表現

共同格の接尾辞以外の所有表現の中で属格の接尾辞*-iin, nii, n*、人称所属助詞および再起の接尾辞*-aa*が所有傾斜によって制限されることはなかった。接尾辞*-h*は人間の場合非文になるため、「愛玩動物」から「その他の所有物」の間に容認される。動詞*bai-*は「親族Ⅱ」から「その他の所有物」まで容認される。動詞*ezemsh-*に関しては「作品」から「その他の所有物」の間でしか容認されない。以上の所有表現の所有傾斜による容認性は次の図1のようにまとめられる。

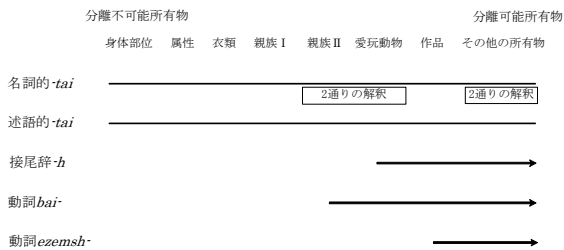


図1 所有表現と所有傾斜の関係

全体的にみると、述語的所有表現がより制限される傾向が観察される。

### 3.4 所有表現の否定

モンゴル語の所有表現の中で共同格の接尾辞*-tai*と動詞*bai-*は否定の形式が存在する。接尾辞*-tai*は接尾辞*-gui*に置き換えることで否定の表現になる。動詞*bai-*は接尾辞を*-gui*を後続することで否定の形式になる。

動詞*bai-*の否定文は肯定文より容認性が高いことは興味深い。所有傾斜上、肯定文が「親族Ⅱ」から「その他の所有物」の間でしか容認さ

れないが、その否定文は「衣類」以外のカテゴリーの所有物に関してほぼ使用可能であった。

(8a, b)は肯定文で非文であったが、否定文で正文になる「属性」の例である。

(8a) Tüün-d tiim saihan setgel baih-güi.  
彼-与格 そんなやさしい 心 ある-否定  
「彼はそんな優しい心を持っていない。」

(8b) \*Tüün-d tiim saihan setgel bai-dag.

共同格の接尾辞*-tai*に関しては、(9a)のように肯定文が普通に用いられるが、否定にすると(9b)のように非文になることがある。このような対比は、述語的所有表現でも名詞的所有表現でも見られた。所有の対象が発話時点で視覚的に捉えられる際には否定文が非文になり、視覚的に捉えられない時には否定文が成立するものと考えられる。(9a)の女性の「目」の存在は発話時点で視覚的に捉えられるため、その否定文(9b)は非文になる。これに対して、(10a)では話題の人が「お金」があるかどうかは発話時点で視覚的に判断できないため、その否定文(10b)は適格となる。

(9a) tom nüd-tei emegtei  
大きい 目-共同格 女性  
「大きな目をしている女性」

(9b) \*tom nüd-güi emegtei

(10a) möngö-tei hün  
お金-共同格 人  
「お金を持っている人、金持ち」

(10b) möngö-güi hün  
お金-否定 人  
「お金を持っていない人、貧乏人」

## 4. モンゴル語と日本語の所有表現の対照

日本語の所有表現との対照の観点からみると、図2に示すように、日本語の所有表現は、所有傾斜のある特定の部分でのみ用いられる

といった制約を受けているものが多い。これに対して、モンゴル語の所有表現の中では所有傾斜上の制限がないものが多く見られる。図2では、全体的にモンゴル語の所有表現が所有傾斜上により連続性が見られ、日本語の所有表現には所有傾斜上の非連続性がより顕著に伺える。

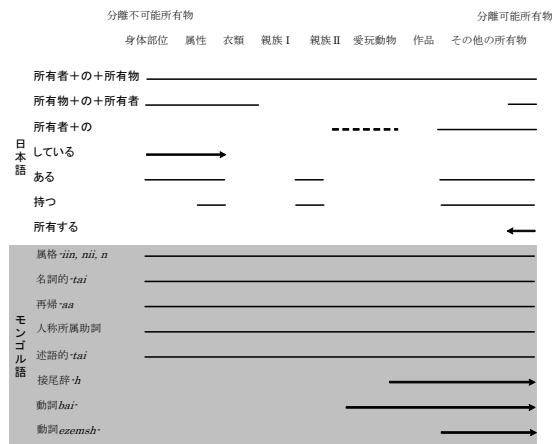


図2 所有傾斜における日本語とモンゴル語の所有表現

両言語の所有表現の対応関係を調べた結果、当該言語の所有表現の中で、他と比べて多義的だと思われる表現が両言語に存在することが確認された。具体的には日本語の助詞「の」とモンゴル語の接尾辞-tai がそれぞれの言語の他の所有表現に比べて多義的であった。日本語の所有表現とモンゴル語の所有表現の対応関係を図3に示す。

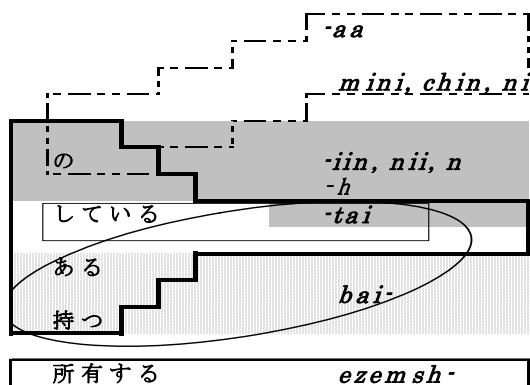


図3 日本語とモンゴル語の所有表現の対応関係

## 5. おわりに

本研究ではモンゴル語の所有表現を角田(1991)の所有傾斜において意味的な容認性を基に分析を行った。モンゴル語の接尾辞-taiによる名詞的表現と述語的表現が所有傾斜の段階によって意味的に異なる解釈を持つことが観察された。動詞 bai-は肯定文の際に意味的に制限されていたが、否定文になると容認性が高くなる現象が見られた。

モンゴル語の所有表現を全体的に見ると、名詞的所有表現の方が所有傾斜において制限が少なく、述語的所有表現の方がより制限が強いという傾向が見られた。また日本語の所有表現との対照の観点からみると、日本語に比べてモンゴル語の所有表現には所有傾斜上の制限がより少ないという傾向が観察された。

## 謝辞

本研究は東北大学 21 世紀COEプログラム「言語・認知総合科学戦略研究教育拠点 (<http://www.lbc21.jp/>)」の支援を一部受けて行われております。

## 参考文献

- Altanzagas (1997) O morpheme -tai v mongolskom yazike (モンゴル語の形態素-tai に関して) *Mongol ulsiin ih surguuliin erdem shinjilgeenii buteel* (モンゴル国立大学研究紀要) 9, Ulaanbaatar, 3-5.
- Heine, B. (1997) *Possession: Cognitive Sources, Forces, and Grammaticalization*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 角田太作 (1991) 『世界の言語と日本語』東京：くろしお出版